

# Network

## 2nd Yasu Riverside conference (YRC,安川河畔カンファレンス) 第2回 広島共立病院 オープンカンファレンス開催



広島共立病院  
院長  
村田 裕彦

去る6月11日に広島共立病院7階にて43名の皆様の参加で開催されました(写真)。参加していただいた先生方には入梅日の雨の中、また、お忙しいところ有り難うございました。

演題発表は当院からの3題でした。内容を簡単に紹介します。外科長嶺医師は、自然気胸の治療について報告しました。胸腔鏡下手術で入院日数が短縮したものの、全身麻酔の影響で対側の再発問題があり、適応はインフォームドコンセントで決定されることでした。整形外科森医師は、大腿骨近位部骨折例のまとめを報告し、単純X線写真で骨折線がわかりにくい場合のMRIの有用性を示しました。そして消化器内科中村医師は、健診で発見された珍しい胃結核を症例提示しました。胃結核は消化管結核の0.8%だそうです。

参加した職員からは、「勉強になった」との声が聞かれました。複数科の医師が一緒に演題発表する機会がないため、院内の勉強の場にもなりません。今後も、病診連携を深める場として充実させていきたいと思っています。

参加した職員からは、「勉強になった」との声が聞かれました。複数科の医師が一緒に演題発表する機会がないため、院内の勉強の場にもなりません。今後も、病診連携を深める場として充実させていきたいと思っています。次回は9月10日(水)を予定しています。積極的なご参加をお願い申し上げます。



第2回安川河畔カンファレンス

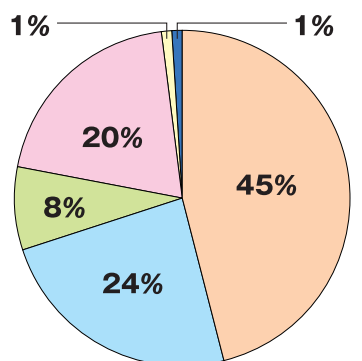
## ISO9001更新審査を終えて



去る6月17～19日にISO9001の更新審査を受けました。ISOはInternational Organization for Standardizationの略で、国際標準化機構のことです。また、9001は品質マネジメントシステムに関する国際規格です。当院は2003年に病院機能評価の認定をうけ、2005年に法人としてISO9001認証を受けました。それぞれ5年毎、3年毎の更新審査があり、今年は両方が重なっています。今回は、まずISOを経験しました。ISO9001は、製造業や販売業では常識的な規格ですが、医療界ではあまり普及していません。病院機能評価に適合した医療の質を、維持し改善していくにはもってこいの仕組みだと思います。今後は院内の業務の細部にわたり適応していくことで、医療の質の向上に役立たせていきたいと思っています。

### 原爆症相談外来受診者の被爆状況の割合

(2007年12月～2008年6月末まで96人)



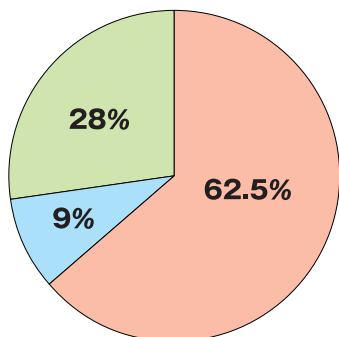
2.0km以内	45%
2.1～3.4km	24%
3.5km以遠	8%
入市被爆	20%
救護	1%
黒い雨	1%

### 原爆症相談外来受診者の病状

(07年12月から08年6月24日まで96人)

がん	58
甲状腺機能障害	9
心筋梗塞、狭心症	10
近距離被爆	10
肝機能障害	3
脊椎疾患	1
外傷、火傷等	1
白内障	4

### 原爆症相談外来での対応結果



当院から認定申請へ	60人	62.5%
他院からの申請を援助	9人	9%
断念	27人	28%

#### 相談室での対応

当院から認定申請	16人
他院に依頼	8人

原爆症認定集団訴訟での国の連敗を受けて4月から新しい制度がスタートしました。従来は2 km以遠での認定は困難でしたが、3.5 km以内の直接被爆、100 時間以内の入市などに条件が緩和されました。これにより対象者は被爆者の20%未満から65%に拡大することとなりました。2001年より減少を続けてきた被爆者関連予算を昨年度と同額としたため新たに1800人が認定可能となったのです。4～6月の3月間で428人が認定され、昨年度1年分の123人を大きく上回りました。厚生労働大臣の職権により原爆症集団訴訟の原告を優先的に認定するとしており、原告305人のうち159人に認定通知が届けられました。

認定制度の変更により申請を希望する被爆者は多く、その相談にのるため、昨年12月から原爆症相談外来を開始し、6月末までに96人が受診されました。60人が当院から認定申請、9人は他院からの申請を援助、27人は対象となる病気がないことや、治療が終了していることから断念となりました。共立病院からの申請は一昨年度が20人、昨年度が38人でしたが、今年度は4～6月ですでに46人となっています。

原爆症相談外来は毎週火曜日の午後に予約制で行っております。ケースワーカーが事前にお話しをうかがってから予約していただいております。ご希望の患者さまがございましたらご紹介ください。申し込み先は相談室（直通電話 8 7 9 - 6 6 7 2）です。

(広島共立病院健診センター長 青木 克明)





医長 築家 大介  
1969年/鳥取大学卒

広島共立病院耳鼻咽喉科は、外来診察を中心に耳鼻咽喉科領域全般を診療しております。

月曜日から土曜日（1・3・5）までの午前診療と、月曜、木曜、金曜日は、午後3時から開始、4時30分までの受付で診療を行い、ご予約も承っております。

医療機器としては、聴力検査のオーディオメーター、喉や咽頭部の検査をする喉頭ファイバースコープ、鼓膜の動きを見るインピーダンスオージオメーターなどがあります。

耳鼻咽喉科疾患の内、例えば、耳鳴りは、血圧、動脈硬化、血液疾患、糖尿病、甲状腺の病気、リウマチ、全身衰弱から生じることもあります。

他に、耳が原因で起こるめまいもあります。耳以外で起こるものも色々あります。貧血、紫斑病、赤血球増加症、心疾患、神経症、自律神経失調症、肩こり、むちうち、首の病気などが原因で起こることもあります。

乳幼児では、化膿性中耳炎で発熱、

高熱となる場合があります。

当院では、小児科、内科、外科、整形外科の診療体制がありますので、院内で、耳鼻咽喉科から他科へ、他科から当科へ紹介でき、総合的に判断できるといふ利点があります。

なお、オーブン検査の予約も承っております。

他院所から、副鼻腔炎、中耳炎の精密検査目的で、MRIの予約をいただくこともあります。

緊急枠でお取りすることも可能ですので、ご一報いただき、ご利用ください。

（地域連携課）



### 3階病棟（内科）、4階病棟（外科、内科混合病棟） における多職種参加型病棟カンファレンス

カンファレンスは情報の共有と医療・看護の質向上が目標です。診療計画や看護計画、多職種からの情報を得て総合的な内容にすることができまます。こういう中で職員もチーム医療を実感することができまます。

多職種型カンファレンスの曜日は病棟ごとに定例化されています。参加職種は医師、病棟の看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、医療ソーシャルワーカー、病棟事務課が参加しています。また必要に応じて他の専門職、訪問看護師やケアマネジャーが参加します。医師がまず病態や病状予後など医学的見地から説明したあと、受け持ち看護師や他の職種がそれぞれの専門分野からみた質問や方針、計画、問題点などを発言していきます。

78歳女性、総胆管癌ターミナル期、未告知の患者様のカンファレンスの1例を紹介します。本人、家族が今後どのような過ごし方をしたいか、そこにとどのような形で医療者として関わることが出来るか検討しました。受け持ち看護師は本人と家族の良き代弁者となり、今後の治療や本人への告知の時期についてしつかり医師に伝えることが出来ました。本人の「一度、家に帰りたい」という希望を受けとめ、受け持ち看護師が付き添いの上、かなえることが出来ました。現在も主治医と看護師が連携を強め、患者及び家族が安心して穏やかにターミナル期を過ごしていただけるよう日々検討し実践しています。

また、在宅に帰られる患者様の合同カンファレンスを、病院だけではなく往診される医師や訪問看護師の同席のもと行っています。患者様をはじめご家族が安心して療養できる環境づくりを目指してチームワークを大事にしています。

